

松阪中央住民協議会

各地域の住民協議会の活動をシリーズで紹介しています。



松阪中央住民協議会 山川良樹 会長

松阪中央住民協議会は、2012年3月に設立されました。松阪駅、松坂城跡、第一小学校と一部の幸小学校区を抱える中心市街地をエリアとし、歴史ある町並みが残る地区です。エリア内には約2,000世帯4,100人が暮らしています。

協議会の活動は、安心・安全、健康福祉、まちづくり、自治、公民館(子育て)の5部会を柱に進められ、エリア内に松阪駅周辺の観光地があるため、住民や観光客にとっても「安心・安全なまちづくり、歩いて楽しいまちづくり」を地域の将来像としています。

取り組みの一つとして、幸地区や企業とも連携した「歩いて楽しい道づくり実行委員会」があります。実行委員会は、平成26年度に「ゾーン30」モデル地区としてスタートし、平成28年度には松阪三珍花を観光資源として掘り起こすなど、様々な活動をしています。取り組みによって、道のゴミが減るなど、地域にも変化が出ているように感じます。

少子高齢化が進む同地区では、地域を次の世代に託すことが課題です。協議会会長の山川良樹さん(67)は、協議会として大切にしているものとして「協同性」を挙げ、「若い人達と面白く楽しみながらやっていきたい」と話します。

歴史ある町並み、文化・史跡など宝物の多い地域で「温故知新」の精神を忘れず、地域に暮らす老若男女がともに支え合える、今の時代に合わせたまちづくりを目指します。



観光客が訪れる松坂城跡周辺で見られる捨て猫・野良猫。その糞尿被害が地域の悩みになっています。

お知らせ

「今後の歩いて楽しい道づくり実行委員会の取り組み」など

今後は、地域の古い町並みなどを活用し、古い建物・建造物の保存、寺社文化の保存・公開、偉人の史跡・名木指定や松阪の文化遺産を掘り起こし、観光資源化することを計画しています。(写真は、第一小学校に生える落羽松(ラクウソウ)。校舎よりも高い。)



活動紹介



松阪三珍花

発祥地の調査や記念碑の建立などを行い、住民や観光客の方々に広く知ってもらいました。碑には、英・中・韓の3カ国語訳を記し、専用のホームページも作成しました。
(<http://www.matsusaka-sanchinka.jp/>)



ゾーン30

路面標示などにより、地区に多い狭路での車速を時速30キロに抑制し、車や歩行者が安全・安心して通行できるようにする取り組みです。地域や警察、市が連携しています。



子育て、人と人とのつながりづくり

就学前の子どもの心身の成長や、子どもやその保護者が地域とつながることの助けとなる取り組みをしています。平成27、28年には子どもやその保護者を対象にした運動会を開きました。